



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2016年5月号)

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



東北の“どんぐり”の苗木の一部が、岩手県山田町の復興商店街の一画に
記念植樹されました。全国の子どもの想いが込められた“どんぐり”の苗木が
「東日本大震災」被災地の復興の風景の中に届けられました。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイ」記念植樹会レポート
2. 「東北復興グリーンウェイ」第三回植樹会レポート
3. 事務局からのお知らせ
 - 新・どんぐり博士の育苗講座（2016年5月号）～「まさ土」への植樹～

■「JP子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「JP子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力

（公社）全国私立保育園連盟

（公社）国土緑化推進機構

（一社）日本森林インストラクター協会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

（株）実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

（公社）大谷保育協会

NPO法人C・C・C富良野自然塾

NPO法人自然体験活動推進協議会

（一社）日本オート・キャンプ協会

保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイ」記念植樹会レポート

2016年 5月22日のグリーンウェイの日に、「東北復興グリーンウェイ」の活動拠点である岩手県山田町に、全国の幼稚園・保育園が届けられた東北の“どんぐり”の苗木の一部が、同町の「新生やまだ商店街」に記念植樹されました。

「新生やまだ商店街」は、岩手県山田町において、同町の復興のターミナルとして、昨年11月に開設されました。今回の記念植樹は、同商店街を運営する、「新生やまだ商店街協同組合」のご協力で実現しました。当日は、「東北復興グリーンウェイ」の植樹活動で、2014年に山田町の森の一面に植樹された“どんぐり”の苗木から4本が、商店街の植栽コーナーに、二か所に分けて植え替えられました。



今回の記念植樹会には、山田町の四つの保育園（山田町第一保育所、豊間根保育園、織笠保育園、船越保育園）の代表園児10人と職員、保護者、地域住民、さらに、全国参加園有志の先生、合わせて約100人が参加してくれました。ご来賓として、山田町の佐藤信逸町長、日本郵政グループより、日本郵政株式会社 木下範子執行役、地元山田郵便局の佐々木陽一局長、そして「新生やまだ商店街協同組合」の昆尚人理事長にもご参加いただきました。

記念植樹終了後、JP子どもの森づくり運動のスペシャルサポーターである、チェーンソーカービング世界チャンピオンの栗田宏武氏によるメモリアルカービングデモンストレーションが行われました。わずか15分で、丸太からフクロウを彫り上げてもらいました。その魔法の様な妙技に、子どもたちも大喜びでした。このフクロウのカービング作品は、植えられた“どんぐり”の苗木の近くに設置され、苗木の成長を見守ってもらうことになりました。



今回植えられた東北の“どんぐり”の苗木は、全国の幼稚園、保育園の子どもたちと職員が、「東日本大震災」被災地の緑の復興を願って育てた苗木です。一方、苗木が植えられる「新生やまだ商店街」は、山田町の人たちの復興の願いのターミナルです。

植えられた東北の“どんぐり”の苗木が、二つの願いのシンボルとして、地域の人たちに見守られていくことを願っております。



2. 「東北復興グリーンウェイブ」第三回植樹会レポート

2016年 5月23日（月）に、「東北復興グリーンウェイブ」の第三回植樹会が、山田町豊間根地区の植樹フィールドにて開催されました。地元山田町の山田町第一保育所、豊間根保育園、織笠保育園、船越保育園、大浦保育園の園児、約50名が活動に参加し、全国から届けられた東北の“どんぐり”の苗木約120本を、今年も植樹しました。



主催者ごあいさつ
豊間根保育園 園長 菅原先生



ご来賓ごあいさつ
山田町農林課 課長補佐 川口さん



日本郵政グループ応援メッセージ
豊間根郵便局 局長 飛内さん



一生懸命、みんなで植えました。



みんなで「大きくなあれ！」



記念撮影



3. 事務局からのお知らせ

1) ユーチューブチャンネル「子森チャンネル」更新のお知らせ

JP子どもの森づくり運動の活動を動画で配信しているユーチューブチャンネル

「子森チャンネル」のコンテンツが更新されました。新企画として、2016年4月に開催された「アウトドアデিজパン2016」の会場にて開催された森育講座「森の色をさがそう！」の活動風景が紹介されています。園における環境学習プログラムとしてご活用下さい。

* アドレス

⇒ <https://www.youtube.com/channel/UC8u4Ryh1Ey5iaWtoCK8vl8Q>

* ホームページからの視聴方法

⇒ JP子どもの森づくり運動ホームページ ⇒ 子森チャンネル&通信 ⇒ 子森チャンネル



2) 「災害時相互支援協力協定」のご提案

「東日本大震災」による被災地が復興の途上にある中、熊本地震による被害が発生しました。今や、自然災害は、全国のどこでも起り得る状況にあると言われ、防災対策は待ったなしです。そんな状況を踏まえて、JP子どもの森づくり運動では5月22日（日）に、岩手県山田町において、北海道・東北ブロックの参加園を対象とする、防災研修会を開催しました。会場では、山田町第一保育所（岩手県）、春明保育園（東京都）、若久青い鳥保育園（福岡県）の三園による、「災害時相互支援協力協定」第一号の締結式も開催されました。（写真）



JP子どもの森づくり運動「災害時支援協力協定」は、同運動の防災ブレンである、消防庁防災アドバイザー鎌田修広氏が提唱する三つの園による災害時の相互支援の関係です。『三つの力が重なって「協力」となる』との例えのとおり、災害時においてもっとも実効性を発揮し得る関係です。事務局（子森ネット）では、2016年度の活動ミッションとして、参加園の相互支援ネットワークづくりをご提案させていただきたいと思っております。皆様の積極的なご参加を希望します。

* 協定の詳細については、ホームページにて案内中です。⇒<http://kodomono-mori.net/archives/4636>

● 新・どんぐり博士の育苗講座（2016年5月号）～「まさ土」（園庭など）への植樹～

今年の復興グリーンウェイブの植樹は、新生やまだ商店街にも行うことができました。森への植樹より商店街のような造成地への植樹では、いくつか手間が必要です。園庭への植樹にも応用できますのでまとめてみました。どんぐり博士：河内和男（「子森ネット」森林インストラクター）



森の中への植樹と、造成された商店街への植樹での条件の違いを比べてみます。

① 植樹本数の違い：商店街や園庭などへの植樹では本数が少なくなります。今回の新生やまだ商店街への植樹本数は4本でした。
② 土の違い：土地の造成や園庭には、「まさ土」と呼ばれる栄養が含まれていない土が使われます。水はけも培養土と比べると悪いです。植樹される苗木は少ない本数だから枯らしてはいけませんが、一般的に、造成地の土の条件はあまり良くありません。そこで色々対策を行います。まず使用する苗は少し大きくなったものにします。今回は2014年に植樹して生長した苗を使いました。また、「まさ土」をそのままは使えませんので改良を加えました。その改良方法について、以下に記します。

- ① 普段の植樹より大きく深い植樹用穴を掘ります。⇒ 掘り出した土は、埋め戻しには使用しません。
- ② 穴の底に赤玉土を5～10cmほど入れます。⇒ 排水性と通気性を改良し根張りを良くします。
- ③ 根が生長していく方向に肥料をまきます（元肥）。⇒ ゆっくり作用する有機性の発酵油かす粒状が使いやすいです。
- ④ 植樹前に穴底にたっぷり水を与えておきます。⇒ 畑に野菜苗を植える際と同じです。
- ⑤ 植樹の埋め戻しは栄養のある土にします。⇒ 本数が少なければ、購入した園芸用培養土の使用が簡単です。

園庭などへの少本数の植樹の際に、参考にしてください。